



南中だより

教育目標 愛 勉学 自主性 健康

令和6年9月 30 日

東久留米市立南中学校

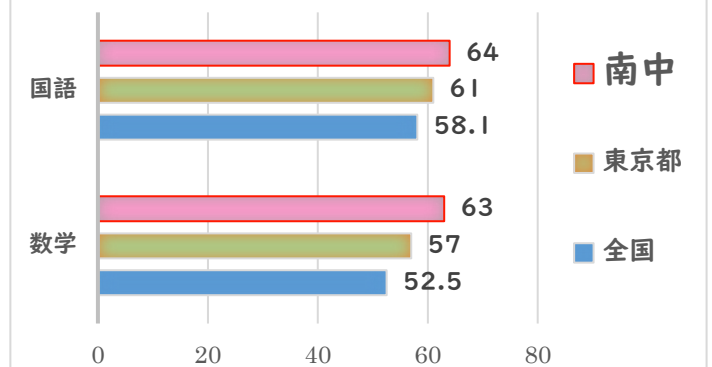
校長 若澤 直樹

「全国学力・学習状況調査」結果について

この調査は、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の改善を図るとともに、学校における指導の充実や改善に役立てることを目的として、毎年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施しています。

南中の各教科の平均正答率は、東京都の平均より国語では3ポイント、数学では6ポイント上回っています。全国平均からは2つの教科ともに5ポイント以上、上回っています。

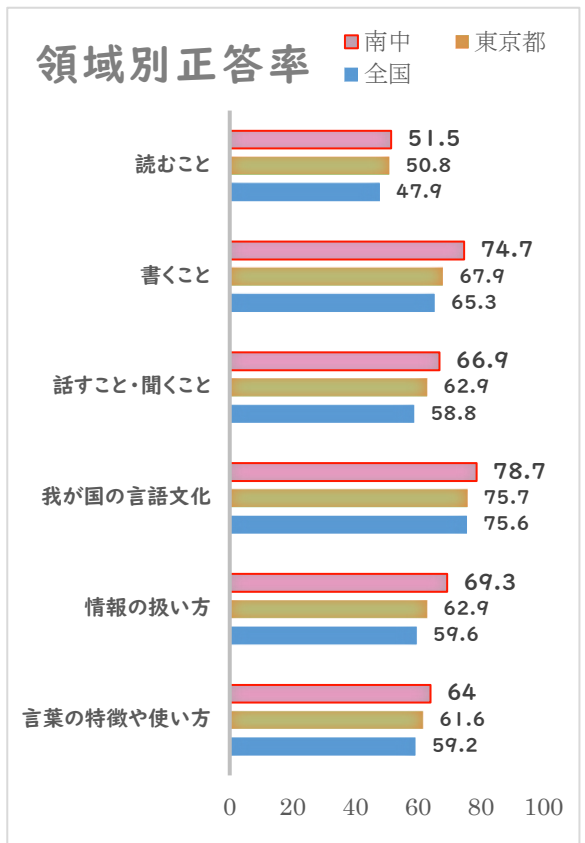
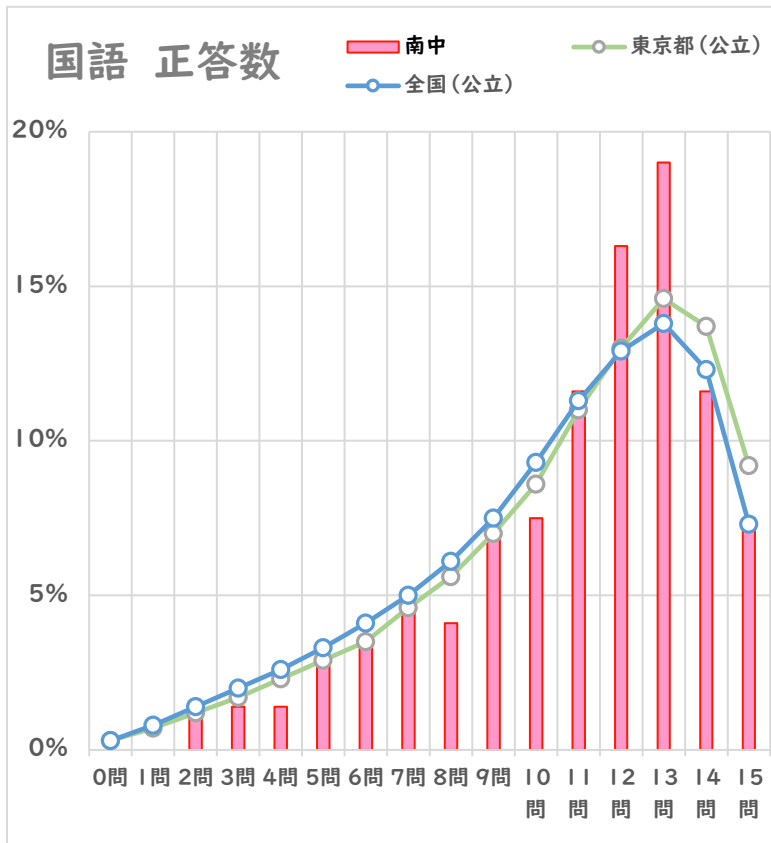
各教科 平均正答率



各教科の正答数分布グラフは、縦軸が生徒数の割合(%)、横軸が正答数、折れ線グラフが東京都平均と全国平均、棒グラフが南中の割合を表しています。

領域別正答率の横棒グラフは、上段が南中、中段が東京都、下段が全国の平均を表しています。

【国語】

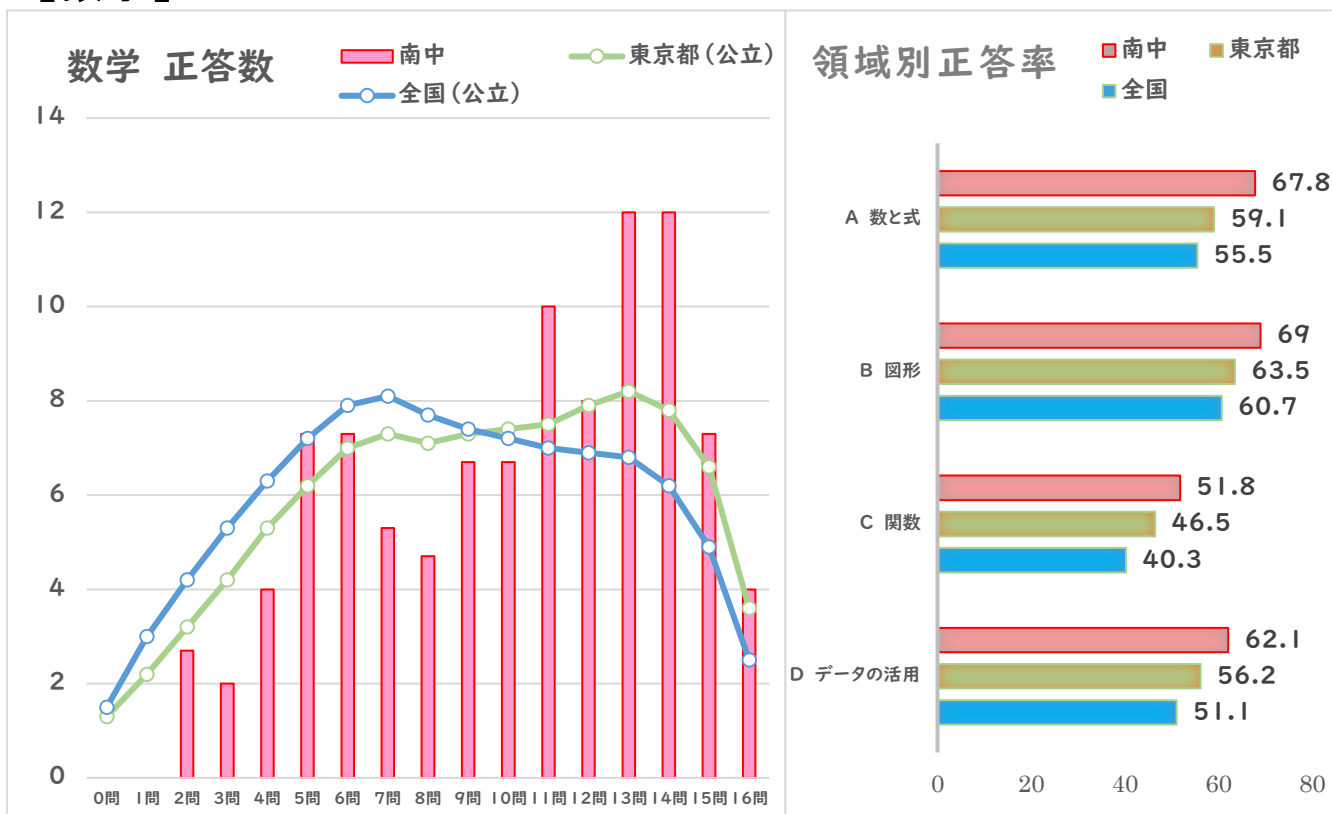


正答数分布グラフによると、全体的に正答数の多い層に多く分布しています。どの問題も正答率で概ね東京都や全国の平均を上回っていますが、特に自分の考えを書く問題は、東京都から 6.8 ポイント、全国平均からは 9.4 ポイント上回っています。記述式の問題の正答率が高いのも結果として出ていますが、これは毎週1回朝学習で「書く力」として、200字から300字の短作文を書く学習を3年間積み重ねてきた結果だと考察されます。書くことを厭わず文章で表現する力は、他教科にも活かされています。

また情報の扱い方と問う問題では、本校の正答率が東京都から 6.4ポイント、全国平均から 9.7 ポイント上回っています。これは、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題や、「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」問題の正答率が高かったことを示しています。

しかし読むことに関する事項では「文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる」問題などにおいて、やや弱い傾向が見られます。そのため、文章を読んで理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習の際に、生徒一人一人の理解や解釈が適切であるかを検討する場面を設定し、必要に応じて修正したり更新したりすることができるよう授業を進めていきます。

【数学】



正答数分布グラフによると、中央値が11問で東京都の平均より2問上回り、そのため領域別正答率はすべての領域で東京都の平均値より5.3~8.7ポイント上回っており、全体として中間層から上位層に多く分布しています。評価の観点では「知識・技能」が 5.4 ポイント、「思考・判断・表現」が8.6ポイント上回っています。

基礎的な力の充実を図るために、全学年計算力の定着を図るための計算テストを実施した後、合格点まで達するまで繰り返し計算に取り組む時間を作っていきます。また、1年生では図形の基礎、2年生では筋道を立てて考えることに時間をかけて取り組んでいきます。3年生では思考判断を問う問題や関数や図形の複合問題にも取り組んでいきます。また、全学年毎週木曜日の朝に「解く力の育成」の問題に取り組んでいます。